

参加無料



インクルーシブデザインの現在地 ー科学と社会の架け橋

2025.1.20 (Mon) 13:30～16:00

科学技術の社会実装という表現が広まって久しい中、科学技術を享受するものの視点を積極的に取り入れ共に創り上げていく「インクルーシブデザイン」の精神と変遷について学び、具体的な事例を通じて科学技術と社会のギャップやこれからを考える機会とします。作り手が使い手の視点をもっと知り、意識していくことで、より良い社会を考えていく道標となることを期待しています。

参加申込はこちら



参加費：無料

定員：100名

場所：国際電気通信基礎技術研究所（ATR）大会議室
（京都府相楽郡精華町光台2丁目2番地2（けいはんな学研都市））

＜お問合せ＞

奈良国立大学機構奈良カレッジズ連携推進センター

(TEL) 0742-20-3411

(Mail) yamato-class@cc.nara-wu.ac.jp



プログラム

13:30	開会挨拶	木戸出 正繼 氏 (ATRメタリサーチイノベーション協会 代表理事)
13:35	基調講演	平井 康之 氏 (九州大学大学院芸術工学研究院・ストラテジックデザイン部門 教授) 「インクルーシブデザインとは」
14:30	話題提供①	ライラ・カセム 氏 (奈良女子大学・工学部 特任准教授) 「実験と実践の先にあるインクルーシブの本質」
14:50	話題提供②	塩見 昌裕 氏 (ATRインタラクショナル科学研究所・エージェントインタラクショナル デザイン研究室 室長) 「ソーシャルロボットとインクルーシブデザイン」
15:10	休憩	
15:20	パネルディスカッション	登壇者：平井 康之 氏、ライラ・カセム 氏、塩見 昌裕 氏 ファシリテーター：小出 直史 氏 (奈良女子大学・奈良カレッジズ連携推進センター 特任准教授)
15:50	総括	才脇 直樹 氏 (奈良女子大学大学院工学系 教授)
16:00	閉会	

登壇者プロフィール

(写真：川本聖哉)



九州大学大学院芸術工学
研究院・ストラテジック
デザイン部門
教授

平井 康之 氏

英国王立芸術大学院 (RCA)、米国IDEOを経て、2000年九州芸術工科大学助教授、2003年九州大学准教授、2016年から現職。オフィスデザインや商品開発の経験をもとに、2003年よりインクルーシブデザイン研究をRCAの研究所であるヘレンハムリン・センター・フォー・デザインと始める。2014年からインクルーシブデザインをもとに行政デザインであるソサエタルデザイン研究にも取り組む。著書に「インクルーシブデザイナー社会の課題を解決するデザイン」学芸出版社など。IAUD国際デザイン賞、Red Dot賞、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞など受賞多数。

(Photo by SOLITI)



奈良女子大学・工学部
特任准教授

ライラ・カセム 氏

日本生まれのイギリス人。2016年東京藝術大学大学院博士課程修了。デザインの専門性を活かし支援を必要とする障害福祉の現場の人々と共に、立場やアビリティ問わず包括的な社会参加や自立につながる商品の制作・開発プロジェクトに国内外で取り組む。2017年から関わる「シブヤフォント」ではクリエイティブディレクターを務める。同プロジェクトはグッドデザイン賞、日本イノベーション大賞、台湾 Golden Pin Design Award、iF デザインアワードなど国内外のアワードを数々受賞。2021年からGOOD DESIGN 審査員を務め、2023年4月から奈良女子大学の特任准教授に就任。



ATRインタラクショナル科学研究所・エージェント
インタラクショナルデザイン
研究室
室長

塩見 昌裕 氏

2001年舞鶴工業高等専門学校電子制御工学科卒業。2003年和歌山大学システム工学部卒業。2004年大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻博士前期課程修了。同年ATR知能ロボティクス研究所研修研究員。2007年大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。ATRインタラクショナル科学研究所・エージェントインタラクショナルデザイン研究室室長としてコミュニケーションロボットの研究に従事。コミュニケーションロボット、集団とロボットの相互作用、ソーシャルタッチに興味を持つ。



奈良女子大学・奈良カ
レッジズ連携推進センター
特任准教授

小出 直史 氏

薬剤師であり、医学博士。理化学研究所にてiPS細胞を用いた眼(網膜)の再生医療に従事し、神戸アイセンター病院やスタートアップの立ち上げに携わる。内閣府SIPにて視野障害に対する高度運転支援システムの研究に取り組み運転外来を実践した。2020年からは大阪大学にて、人文学・社会科学の研究振興と共創のあり方を探求。現在はコロナ禍の検証をテーマに研究活動する傍らで、モータージャーナリストとして健康運転寿命の延伸や社会的受容に関する啓発活動を展開。2024年12月より奈良女子大学で奈良カレッジズの確立に向けた新研究グループの立ち上げに従事。